

JA常陸 奥久慈枝物部会による知事表敬訪問

春を彩る「奥久慈の花桃」

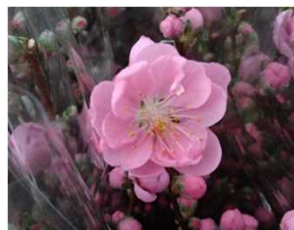
～ 人気の枝物ブランド「奥久慈の花桃」が出荷の最盛期～

3月3日の桃の節句を前に、JA常陸 奥久慈枝物部会が、知事を訪問し、PRを行いました。

「奥久慈の花桃」は、消費者の元で咲ききる品質、1年枝で木肌が美しい、1束ずつスリーブ入り出荷形態という特徴があります。

品質が良く、市場のニーズに合った形態の花桃を出荷していることから、年々市場からの注文が増え、今季は昨年より多い、13万8千束を出荷する予定で、過去最高が見込まれます。

JA常陸奥久慈枝物部会は、「花桃」をはじめ、約250種類の枝物を周年で出荷し、全国に「奥久慈の四季」を届ける産地です。平成17年より県北中山間地の耕作放棄地の解消に取り組みながら、定年帰農者などの担い手を中心に産地規模を拡大させ、平成30年に、販売金額1億円を達成し、令和元年には、切り枝として県内初の「茨城県花き銘柄産地」の指定を受けました。さらに、近年は若い担い手も増え、**令和4年度の販売金額は2億円を突破し、急成長**を遂げています。



— JA常陸 奥久慈枝物部会による知事 表敬訪問・PR —

- ◇ 日時：令和5年3月2日（木）
- ◇ 場所：県庁 知事応接室
- ◇ 訪問者：JA常陸 奥久慈枝物部会：菊池部会長、石川会長、JA常陸 秋山代表理事組合長、鈴木常陸大宮市長、高梨大子町長、宮田常陸太田市長 他計8名



【大井川 知事からのコメント】

- ・売上が右肩上がりであり、特に、1億円から2億円までが急成長。驚くべき成果です。
- ・耕作放棄地の解消にも尽力され、環境や景観の向上等にも寄与され、高く評価されています。
- ・中山間地域で耕作面積も小さく、傾斜等もあるなかで、そういった条件なども逆手にとって、毎年、販売を伸ばしている。すごいことです。
- ・全量注文対応での出荷、値段を部会の方が決定するなど、素晴らしい販売スタイルの取組です。

県北地域は、中山間地を抱えるなど耕作条件不利地域が多いことに加え、少子・高齢化や、人口減少を背景に、農業の後継者不足等の課題から「農業・農村」の停滞が懸念されています。一方、枝物部会では、これまで関係機関と連携しながら、「心伝わる産地」を目指し、耕作放棄地解消や、地域活性化に取り組むとともに、新規就農者支援も進め、急成長してきました。県北農林事務所では、今後とも、現場における技術支援や補助事業等を活用した支援、また、畑地化への取組支援などを含め、県北地域における「枝物産地の育成」を推進してまいります。